



公立はこだて未来大学発ベンチャー

MIRAI SHARE

Share the Smart Future

～ 移動格差のない社会を目指して ～

公立はこだて未来大学のITで未来の公共交通を創造します



会社概要

会社名	株式会社 未来シェア（英名：Mirai Share Co., Ltd.）
設立	2016年7月21日
本社所在地	函館本社：〒041-0806 北海道函館市美原2-7-21
事業所	横浜事業所：横浜市西区みなとみらい3-7-1 オーシャンゲートみなとみらい8F つくば事業所：つくば市吾妻1-5-7 ダイワロイネットホテルつくばビル2F 札幌事業所：札幌市中央区北4条西4丁目1-7 MMS札幌駅前ビル1F
取締役会長	中島 秀之：札幌市立大学 学長、公立はこだて未来大学 名誉学長 工学博士 松原 仁：京都橋大学 工学部 情報工学科 教授 公立はこだて未来大学 特命教授 工学博士
代表取締役	松舘 渉：株式会社アットウェア 取締役、株式会社駅探 社外取締役
取締役	平田 圭二：公立はこだて未来大学 特命教授 工学博士 野田 五十樹：北海道大学 大学院 情報科学研究院 教授 博士(工学) 金森 亮：名古屋大学モビリティ社会研究所 特任教授 博士(工学) 岩村 龍一：株式会社コミタクモビリティサービス 取締役会長
主要株主	株式会社アットウェア、コミタクモビリティサービス株式会社、株式会社JTB
連絡先	Mail：contact@miraishare.co.jp
URL	https://www.miraishare.co.jp/

業務内容

- オンデマンド・リアルタイム・便乗配車決定サービス（SAVS）の導入による、モビリティを伴うサービスの価値向上と効率化
- 移動需要データを元にしたシミュレーション分析による、地域毎の最適な車両台数や配車条件の予測
- 公共交通の再編と新たなモビリティ導入検討のためのコンサルテーション

SAVS（Smart Access Vehicle Service：スマート アクセス ビークル サービス）とは、タクシー（デマンド交通）と路線バス（乗合交通）の長所を掛け合わせた、AI によるリアルタイムな便乗配車計算を行うサービスです。クラウド上の AI プラットフォームが各種アプリケーションと通信しつつ、刻々と変化する車両位置や人・物の移動状況を把握し、あらゆる移動要求を満たす全ての車両の走行ルートを瞬時に自動で決定します。都市レベルでの全体最適交通を実現し、モビリティを伴う各種サービスの質と価値の向上に貢献します。

現在の都市交通・物流

歩合制によるドライバー間の競争 計画に沿った運行、送迎

勘



A タクシー

経験



B タクシー

スケジュール



路線バス



物流

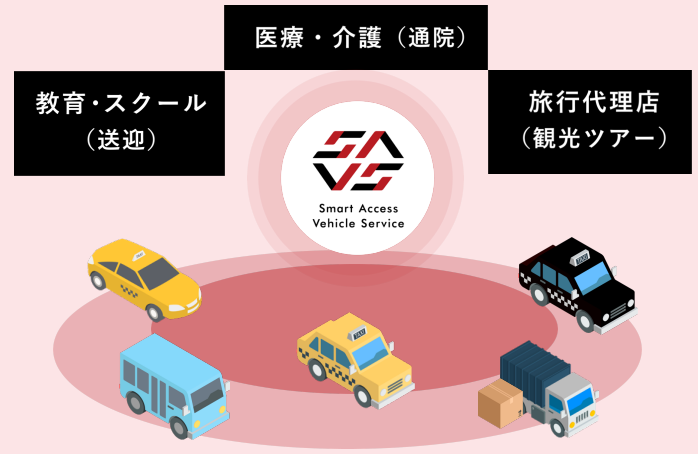
自家用

送迎

- タクシー・ハイヤー
- 路線バス
- スクール・通勤バス
- 学童・塾・習い事送迎
- 観光・周遊旅行
- MICE・イベント送迎
- ホテル・旅館送迎
- フードデリバリー
- 物流・宅配・郵便
- 買い物代行
- 訪問介護・訪問点検
- 介護施設・病院送迎
- パーク&ライド
- ライドシェア etc.

全体最適 運行制御

各車両協力による全体的な利益向上
SAVSと各種サービスとのクラウド連携



あらゆる移動目的における、あらゆる送迎（配送）車両の運行を全体最適の視点で効率化を図るモビリティプラットフォームを提供します。

従来のサービス毎に分割された運行計画の策定を、AIによる都市レベルの最適化を図る完全自動配車計算に置き換えることにより、無駄な車両とドライバーの拘束時間、総走行距離を減らし、移動を伴うサービスの質を向上させます。

交通に関わる社会課題の解決に向けた取り組み

交通空白地の移動手段

- 高齢者の免許返納促進
- 過疎地域の交通手段確保
- 外出の促進と健康生活維持

ドライバー不足

- 運送・輸送の効率化
- 需給バランス適正化
- 労働条件の改善

都市計画

- 企業・住民・観光客誘致
- 渋滞緩和・災害時対策
- 公共交通維持・支出抑制

AI配車プラットフォーム による課題解決



SAVS Smart Access Vehicle Service



事業者に対する課題解決：効果的な配車手段の提供
スケジュール通りの定期ルート運行、勘と経験に頼る客待ち、客探しなどの従来の慣習を改め、実際の乗車利用要求に従った運行を行います。

オンデマンド配車と乗合い走行の組み合わせにより、乗客がないままの走行を減らし、かつ1台あたりの送迎数を増やし、必要経費の削減と利用者満足度の向上を実現します。

利用者に対する課題解決：移動手段利用格差の解消
移動にかかるコスト、利用できる移動手段、利用可能頻度など、人々の暮らしに必要な移動を取り巻く状況は、生活地域（都市と地方）、生活水準、健康状態等により大きく異なります。移動手段利用格差を解消し、より便利に、より低コストで人々が移動できる社会を実現します。

社会に対する課題解決：環境保全、地域経済活性化
道路交通網内を走行する車両1台あたりの輸送効率を高め、渋滞緩和とCO2排出量削減などの環境保全に貢献します。人々の移動を活性化し、地域経済の活性化と健康的な生活の維持に貢献します。

SUSTAINABLE GOALS

